

2019年（平成31年）4月25日

## 2019年度 鉄道・バス設備投資計画 安全対策とサービスの向上に総額213億円

### 相鉄・JR直通線用の新型車両を5編成導入

相鉄グループ

相鉄グループでは、2019年度に鉄道事業とバス事業において、総額213億円（鉄道事業202億円・バス事業11億円）の設備投資を実施します。

鉄道事業（相模鉄道㈱：本社・横浜市西区、社長・滝澤秀之）では、11月30日（土）に開業を予定している相鉄・JR直通線に向けて、既に導入している新型車両「12000系」1編成に加えて、さらに5編成導入するなど、開業に向けての準備を鋭意進める他、駅ホームにおける安全と安定輸送を確保するため全駅へのホームドア設置（2022年度末完了予定）に向けた準備工事を進めます。また、車両機器や電気設備の更新なども行い、さらなる安全性の向上を図ります。この他、お客さまへのサービス向上のため「デザインブランドアッププロジェクト※1」の統一コンセプトに基づき、既存車両や駅舎のリニューアルを引き続き実施します。

バス事業（相鉄バス㈱：本社・横浜市西区、社長・菅谷雅夫）では、さらなるバリアフリー化を推進するため、大型ノンステップバス21台（うちハイブリッドバス10台）を導入する他、安全性の高いASV※2型の高速バスを導入します。

詳細は、別紙のとおりです。



相鉄線 横浜駅に設置したホームドア



4月20日に営業運転を開始した  
相鉄・JR直通線用の新型車両「12000系」

(記号：◎今年度竣工予定・○継続)

## 【鉄道事業】 202億円

### 1. 安全・安定輸送の確保

#### ○ホームドアの設置

駅ホームにおける安全性向上のため、2022年度末までに相鉄線全駅にホームドアを設置します。今年度はホームの補強や列車定位置停止装置（TASC）などの準備工事を実施します。2020年度末までに二俣川駅、大和駅、湘南台駅に設置する予定です。なお、ホームドアの設置にあたっては、国および地方自治体の協力のもと進めてまいります。



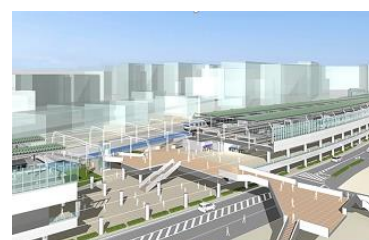
相鉄線 横浜駅のホームドア

#### ○相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差事業

踏切事故と交通渋滞の解消や地域の一体化を図るため、2018年11月に星川駅と天王町駅を含めた上下線約1.8km（工事区間）を高架化しました。

今年度は、天王町駅・星川駅の駅舎改良や周辺道路の整備を進めます。

\*本事業は横浜市の都市計画事業です。



星川駅完成イメージ

#### ○構造物の改修

万騎が原トンネル（横浜市旭区）内部の改修（2016年度着手）を実施し、コンクリート片の剥落を防止します。また、いずみ野線の高架橋の高欄（防護壁）の落下防止対策（2017年度着手）を実施し、安全性強化を図ります。



万騎が原トンネルの内部の様子

### 2. サービスの向上

#### ◎新型車両「12000系」の導入

2019年11月30日（土）の相鉄・JR直通線、2022年度下期（予定）の相鉄・東急直通線の開業に向けて、順次新型車両を導入します。

今年度は、相鉄・JR直通線用の新型車両「12000系」を5編成50両導入する予定です。



12000系車両（室内）

#### ○車両リニューアル

「デザインブランドアッププロジェクト」の取り組みとして、車両のリニューアルを進めています。車体を「ヨコハマネイビーブルー」に塗装するほか、座席の座面や吊革の変更などの内装改良や車内案内表示の液晶画面化などを行います。今年度は、9000系など3編成をリニューアルする予定です。また、車両の空調システムを改良し、車内環境の快適性向上を図ります。



9000系リニューアル車両

#### ○駅舎のリニューアル [南万騎が原駅]

「デザインブランドアッププロジェクト」の取り組みとして、内外装の改修など駅舎のリニューアルを進めています。

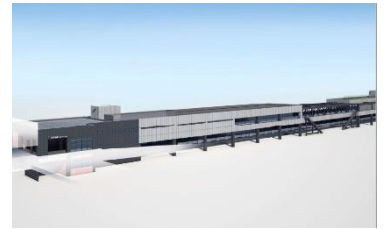
今年度は、南万騎が原駅において、改札のスルーラッチ化やトイレのリニューアルなどを予定しています。



リニューアルした弥生台駅

### ○海老名駅総合改善事業

鉄道駅総合改善事業（形成計画事業）として、北口および南口2階への改札口増設、ホームドアの新設、生活支援設備を整備し、駅舎の建て替えを行います。今年度は、基礎杭工事および鉄骨工事、仮設駅舎の構築などを予定しています。



相鉄線 海老名駅完成イメージ

### ○待合室の新設 [希望ヶ丘駅]

電車を快適にお待ちいただくため、各駅に待合室を設置します。今年度は希望ヶ丘駅へ設置を予定しています。



待合室（弥生台駅）

### ○行先案内表示装置の設置

列車種別・発車時刻・乗り換え案内などを表示する行先案内表示装置をホームや改札口付近に設置し、お客さまへの案内サービスの向上を図ります。今年度は平沼橋駅と西谷駅へ設置を予定しています。



行先案内表示装置  
（かしわ台駅）

## [バス事業] 11億円

### ◎乗合バスの導入（大型21台）

環境への一層の配慮および燃料費などのトータルコストを低減できるハイブリッドバス10台を含む、乗り降りがしやすいニーリング機能※3付きノンステップバス21台を導入します。

### ◎高速バスの導入（4台）

安全性の高いASV型の高速バスを4台導入します。



導入予定の乗合バス

### ※1 「デザインブランドアッププロジェクト」とは・・・

相鉄グループは、2017年12月に創立100周年を迎え、その後も都心への相互直通運転を予定していることから、お客さまとの最大の接点となる鉄道の駅舎や車両、駅に隣接する商業施設などを統一したデザインコンセプトに基づきリニューアルを進め、認知度や好感度を高めることで「選ばれる沿線」を実現するための取り組み。

### ※2 ASV型とは・・・

Advanced Safety Vehicle（先進安全自動車）の略。

衝突被害軽減ブレーキ、車間距離保持機能付オートクルーズなどの先進技術を利用してドライバーの安全運転を支援するシステムを搭載した自動車。

### ※3 ニーリング機能とは・・・

エアサスペンションの空気圧を調整して車体を傾けることにより、乗降口側を低くして乗り降りを容易にする機能。